AKITA SDGs

あきたSDGs アワード2024

取組内容の紹介

2025.1.24

受賞者

株式会社アマノ

株式会社そごう・西武 西武秋田店

株式会社プレステージ・インターナショナル
秋田BPOメインキャンパス

三本珈琲株式会社秋田支店

memomi

由利本荘市商工会

※この資料は、受賞者が応募用紙に記載した内容をまとめたものです。

SUPER CENTER AMANO

株式アマノ

社員・お客様・地域を絡めての食と健康への取り組み強化

取組の目的・背景

■背景

高齢化率、がん死亡率が高い本県において、「お客様も、働く従業員も、健康で長生きしてもらうこと」が最も大切なことと考えた。

■目的

食を通じて健康と豊かな消費生活を提案する「食育コミュニケーション活動」に取り組み、美味しくて体に良い食材や、その食べ方を勉強して、地域のお客様へ貢献できる店舗づくりを目指す。

取組の内容

・毎月１回の店頭イベント「食育応援週間」の実施により、健康的な食生活を提案。
食育応援週間は令和3年11月よりスタートし、2024年7月で第30回目を迎えた。

・食と健康に関わる情報発信や、おすすめ食材を使った献立提案、旬の食材を使ったレシピの配布を実施し、お客様へ周知している。レシピについては、取引先メーカー提供の物に加え、従業員からの募集レシピ、野菜ソムリエの考案レシピ、行事食、伝統食、秋田の郷土料理などを含め、これまでに900種類以上を作成し200,000枚以上を配布。

・試食やアンケート、ゲーム等を行い、お客様が参加できる体験型イベントにすることで、食について楽しく学べる機会を作っている。また夕方に行われる「４時市タイムセール」では、調理した食材の試食が出来るLIVE販売を実施し、「美味しさ」を伝えている。

・食育応援週間中の土曜日には、秋田県出身の野菜ソムリエプロによる店頭販売「野菜の教室」を実施し、美味しい野菜の食べ方を紹介している。

・青果および鮮魚売場に産地直送コーナーを設置し、農産物、海産物を中心とした地場産品を積極的に販売し、地産地消に貢献している。

・地域の食生活改善推進員と連携したイベント、メニュー開発のほか、健康講座や店頭でのチラシ配りなど啓発活動を実施している。（井川町・男鹿市）
・地元中学生との「食育弁当」の開発・販売を行い、地域を巻き込んだ食育の普及、啓発に取り組んでいる。（男鹿市）
・地元小学生の社会科見学では店舗内、バックヤードの見学等を実施している。
・中学生、高校生のインターンシップの受け入れも積極的に行っており、食料品を取り扱う企業ならではの職場体験に繋がっている。
・秋田市環境都市推進課との協働で『食品ロス削減』の普及活動を行っている。店内に食品ロス削減コーナーを常設し、フードロス削減に関する配布物を使った啓発活動を実施している。

■取組の実績・成果
・お客様からのお褒めの言葉を多く頂戴している。「料理のレパートリーが増えた」「調理技術が身に付いた」「家族の団らんが増えた」「子供が嫌いな野菜を食べられるようになった」「夫が料理を作るようになった」「栄養バランスの大切さを再確認した」等。

・令和6年4月8日発行　流通業業界紙　『食品商業　2024年5月号』にて特集記事が掲載された。また掲載以降、取引先メーカー・問屋からの問合せが増えており、様々な販売促進提案やイベント実施の協力が新たに得られた。

今後の展望

・小学生を対象とした「おしごと体験」イベントを実施予定。（秋田市御所野店）
スーパーマーケットの本物の商品や道具を使って、本物のお客様と接客する『ホンモノ体験』を提供。生鮮部門での調理やレジでの接客を通じ、お仕事の難しさや喜び、楽しさを学び、「食」に関心を持ってもらう。
参加者には子供用の制服や白衣を用意し、実際の店頭でお仕事をする姿を一般のお客様にも見て貰い、体験してもらう。

・地場産品の積極的な販売に向け、地元メーカー、生産者と食育の取り組みを進める。
「〇〇の日」や「季節行事」に合わせた催しを実施し、「マグロの解体販売」や「まいたけのまるごと１株販売」など、体験型イベントを企画する。

・野菜摂取推進プロジェクト（野菜摂取意欲を高める取り組み）の強化。
手のひらをセンサーに数十秒当てるだけで野菜の摂取量が足りているかを計測できる機器「ベジチェック®」を店頭へ設置し、野菜摂取を推進する。

・生鮮食品の廃棄ロスを現状の半分程度にする。
販売数、陳列数を見直し、仕入、製造の過剰を防ぐ。
商品管理レベルを高め、商品価値が高いうちの割引販売による売切りを目指す。

株式会社そごう・西武 西武秋田店

お客さまや地域の皆さまと共に
社会課題の解決に取り組む「百貨店のSDGｓ」

取組の目的・背景

街の中心に位置する百貨店は、皆さまに豊かな暮らしをご提案する商業施設であると同時に、お客さまをはじめ、地域の皆さまをつなぐ場でもある。日々ご来店される多くのお客さまの中には「社会のために少しでも役に立つことをしたいけれど、NPOなどに知り合いはいないし、自らボランティアに参加するのも少し抵抗がある。」という方が多いため、そのようなお客さまのやさしさを社会貢献団体につなぐ「３つの社会貢献活動」として「盲導犬育成支援」「植樹・育樹」「途上国支援」を実施。また、地域のさまざまなステークホルダーと連動し、百貨店の場を活用した地域活性化への取り組みを実施している。

取組の内容

■３つの社会貢献活動

①盲導犬育成支援（2004年～）

視覚に障がいのある方と盲導犬への理解促進を目的に、1階＝正面入口に盲導犬をかたどった大型募金箱を常設。また、従業員も毎月の給与から自動引落で積み立てる「ワン！コイン倶楽部」の募金を任意で実施し、店頭募金と合わせて日本盲導犬協会に寄付。その他にも、定期的に、日本盲導犬協会の協力で「盲導犬キャンペーン」を開催し、お客さまへの啓発活動を実施。

②植樹・育樹（2009年～）

1階＝洋品小物売場、2階＝紳士洋品売場、地階＝商品券売場、インテリア雑貨売場で、税込100円のグリーンラッピングをお選びいただくと、その内の50円が認定NPO法人 環境リレーションズ研究所への寄付となり、植樹や育樹に役立てられている。グリーンラッピングのワンポイントには、西武竿燈会が竿燈祭りで使用し折れてしまった竿竹を再利用した手作りマスコットを活用。グリーンラッピングは80件で1本分の植樹につながっている。

③途上国支援（2009年～）

2階＝こども服 学生服・ランドセル承りカウンターでは、常時お客さまから使わなくなったこども靴をお預かりし、国際協力NGOジョイセフを通じてザンビア共和国に届けられ、こどもたちの足を寄生虫病や破傷風から守っている。

■地域との取り組み

①循環型システムを構築

西武秋田店で排出された生ごみを店内のコンポストで堆肥化し秋田県内の果樹園に寄贈。そこで収穫されたりんごを西武秋田店で販売することで循環型社会への貢献につながっている。また家庭菜園用として、毎月カードメンバーのお客さまにも数量限定で堆肥を配布。

②秋田の再生可能エネルギーパネル展（2021年）

秋田県エネルギー・資源振興課等と連携し、秋田県の大自然を活かした再生可能エネルギーによる発電システムをパネルや模型で紹介。県民に向け、地元秋田県の取り組みを知ってもらう活動となった。

③秋田市職員民間企業研修に協力

年に4回、各回約10名を受入れ、百貨店のおもてなしを修得して頂く研修を実施。実際に店頭で接客を体験することで「市民・地域・組織にとって価値ある職員」の育成に貢献。

■取組の実績・成果

①盲導犬育成支援募金額累計：10,092,657円（2004年9月～2024年12月までの累計）

②グリーンラッピング承り件数：15,833件（2004年9月～2024年12月までの累計）

③こども靴下取り足数：28,543足（2004年9月～2024年12月までの累計）

今後の展望

そごう・西武の環境方針では、「環境・社会・経済が一体となった事業活動を通じ、お客さまやお取引先、地域とともに、次世代に続く豊かなくらしづくりに取り組みます」を基本理念に掲げている。

昨年開店40周年を迎えた西武秋田店は、県内唯一の百貨店として、街の中心にある立地を活用し、お客さまをはじめ、自治体、企業、学校、団体等、秋田県SDGｓパートナーの皆さまがつながる場を提供することで、持続可能な街づくりへの貢献を目指す。

株式会社プレステージ・インターナショナル
秋田BPOメインキャンパス

未来の秋田を担う人材を育む地域活性活動

取組の目的・背景

■食料支援を必要とする人への支援を通じた貧困問題の解消、分け合う心（福祉）を醸成する。
■SDGｓ目標項目内の「豊かな海を守ろう」を実践し、地域の方も巻き込みながら活動することで啓もうする。
■お子様たちにボール遊びの楽しさを伝えつつ、空間認知能力の向上やリズム感を養い、次代のアスリートや健康な子供の育成に寄与する。
■県内若年層に教育を通じて地域活性の取り組みの「楽しさ」「やりがい」を学んでいただき、Aターン及び秋田の発展に寄与する若者を育成する。

取組の内容

①プレステージ・インターナショナル社内及びホームゲーム会場（大館）にBOXを設置し、不要な食料品を回収。集まった食品はフードドライブの窓口となる「特定非営利活動法人秋田たすけあいネットあゆむ」様に納品した。社内においては各家庭の在庫状況に精通した主婦層が多く、大変多くの食料品を回収できた。

②チームが拠点を置く市町村及びホームゲーム開催地などを中心に、近隣住民の方々やスポンサー様、漁業協同組合の皆さまなどと協力し海岸のゴミ拾いを行った。

③お子様用のボールを用いたボール遊び、バナナ体操などの幼児向けの体操を一緒に実施。体を動かすことや、普段接する機会のないトップアスリートとの交流から、先生・保護者以外の大人と接することの楽しさを学んでもらった。

④秋田商業高校の実践授業の一環で、学科毎に学んできたことを実践的に活かす場として2022年よりデュアルシステムを開始。地元で活躍する人材の育成をテーマに、地域活性の要素を取り入れたワークショップをカリキュラムの肝としている。メディアにも多数取り上げられ、若年層への啓もうにも貢献した。

・若年層が活躍の場に就けるよう、ビジネスマナー研修、履歴書の作成、面接練習を実施。
・「アランマーレホームゲームの集客イベント」をテーマにワークショップを実施。グループ毎にアイデアの発表を行い。最優秀賞を決定。
・ワークショップの最優秀賞を実現可能なかたちにアレンジし、アランマーレホームゲームで生徒とともにイベント運営。

■取組の実績・成果

①社内及びホームゲーム会場での実施で、コンテナ4箱分の食品を回収した。

②新屋・能代・由利本荘の3つ海浜公園で行ったビーチクリーンでは、各回50～100名の方々にご参加いただき、多くのゴミを回収した。

③2023年度は様々な団体を対象に計7回のキャラバンを実施。多くのお子様たちとの交流を行った。

④アランマーレホームゲームの集客イベントとして、秋田商業高校生徒が発案した地産地商の食品を提供し、観客に対して秋田の魅力を発信。

2022年CNAアリーナで 集客1,312名（土曜）/1,605名（日曜）、
2023年秋田県立体育館 集客856名（土曜）/ 1,335名（日曜） 達成。

今後の展望

①社内やホームゲーム会場での実施回数を増やし、より多くの食料品の回収を目指す。

②これまでWリーグ参入時より3年間実施してきたが、今後も継続的に活動し、それをチームで発信していくことで活動の周知とともにビーチ利用者への意識付け（啓もう活動）を行っていく。

③継続した活動を行うとともに、アランマーレ秋田独自のプログラムを作成し、キャラバンの内容をブラッシュアップして引き続き、子ども達の健康及びスポーツ振興の発展に寄与する。

④2024年度はより実践的な事業とするため、ワークショップのテーマをアランマーレホームゲームの集客イベントからスポンサーとの共創企画の提案とする。
生徒には、よりビジネス実践に近い体験を通して今後の自身の学びの方向性や地元への貢献意識を啓もうする。また、実績と合わせて、デュアルシステム対象校を増やし、若者と共に地域活性に尽力する。

三本珈琲株式会社　秋田支店

食品ロス削減と学校給食支援で「ちょっとした幸せ」を世界中のみんなに届ける！
～秋田から地域へ→地域から地球へ！～つなげて広げる国際貢献

取組の目的・背景

■秋田県内での災害発生の増加

近年、豪雨や地震など自然災害が多発し被害も甚大化している。秋田県も例外ではなく、2023年７月に続き2024年７月にも記録的な大雨により、各地で被害が発生している。

■自社の食品ロス削減の推進

コーヒー製造時に発生する食品ロスを削減することは食品事業者の使命であり課題である。

■コーヒーでできる国際貢献

コーヒー生豆産地のほとんどが途上国である現状から、全社を挙げて推進している「SUNSHINE COFFEE PROJECT」を県内でも普及したい。

取組の内容

私たちは秋田県内への貢献とそれを土台とした国際貢献を両輪として活動を行っており、一人ひとりの少しの思いやりが世界中に境目なく、それぞれの「ちょとした幸せ」を届けることに繋がることを伝え続けている。それが誰一人取り残すことのない社会の実現につながるものと考えている。

①自社食品ロスを活用した被災地支援活動

コーヒー製造時に発生する機械残、規格外品、商慣習により販売できなくなった商品などを活用して寄付用コーヒーを製造し、県内のボランティアセンター等に贈っている。

コーヒーは世界で一番飲まれている飲料であり、被害に遭った方だけでなくボランティアセンターで活動する方々もコーヒーを飲み、忙しい中でほっと一息することで、精神的なくつろぎを与えることができる。

自社の食品ロスを活用しているため、この活動は製造活動を続ける限り可能であり、食品ロス削減による環境負荷低減に加え、地域貢献、地域活性に寄与することができる。

②地域連携で国際貢献に手軽参加、熱烈支援！「SUNSHINE COFFEE PROJECT」

「SUNSHINE COFFEE PROJECT」は三本珈琲のレッドカップキャンペーン対象商品を取り扱う業務店により結成されるもので、対象商品の売上の一部は国連WFPを通じた途上国の学校給食支援に寄付される。学校給食支援には、単なる栄養の支援以外に学校に通えない子どもを減らす効果や、その結果、子どもが正しい知識を身に着けて大人になり、将来的に国や地域が正しく発展していくことを支援することにつながる。

多くの業務店で結成するプロジェクト形式によりレッドカップキャンペーンを支援することは三本珈琲が初めて行ったものであり、ホテルやカフェなど多くの人が集まる場所で商品が使用されることで、売上による寄付という効果の他に認知度の向上が見込まれる。

全社で行うこの取り組みは県内でも着実に進んでおり、三本珈琲のコーヒーをきっかけにレッドカップキャンペーンに興味を持った方を増やし、レッドカップマークの認知度向上に寄与している。コーヒーの販売とともにレッドカップマークの付いたメニューや啓発用POPを掲示してもらうことで、多くの人々の目にレッドカップキャンペーン及びレッドカップマークが触れることとなる。

秋田に居ながらにして途上国の子どもたちに学校給食を届け、子供たちの未来を明るく照らすこの活動に一人でも多くの賛同者が得られるように日々活動している。

■取組の実績・成果

【被災地支援実績・成果】

2023年７月の大雨災害時には、350kgのレギュラーコーヒーを県内６カ所の社会福祉協議会を通じて各地のボランティアセンターや必要な先に配布した。

また、2024年７月には200kgのレギュラーコーヒーを県内３ヵ所、山形県１カ所の社会福祉協議会を通じて各地のボランティアセンターや必要な先に配布し、被災地支援用コーヒーの提供により自社の食品ロスの削減にもつなげた。

【「SUNSHINE COFFEE PROJECT」によるレッドカップキャンペーン実績・成果】

2024年7月現在の県内の賛同企業数：5企業、2023年からの学校給食支援実績：約225食

今後の展望

今後も秋田県内及び近隣地域での災害発生時などには適切な先と連携して迅速な支援を行う。自社の食品ロスを活用して支援につなげる仕組みがより多くの企業に広がることで、無理のない自然な形での循環と活発な地域社会の形成が促進されるよう、取組を継続し広く発信していきたい。

「SUNSHINE COFFEE PROJECT」は県内では推進の余地が多い。取り組みを発信し賛同企業を増やし、１食でも多くの学校給食を秋田県から世界に届けられるよう活動していく。

このような地域連携から世界へと展開可能な貢献の輪を大きくつなげ、持続可能な世界への貢献を秋田発で行うことを今後も継続していく。

memomi

実店舗とオンライン発信によるふるさと回遊観光促進事業

取組の目的・背景

由利本荘市由利地域にある「森子大物忌神社」が、2022年12月に公開された映画「THE FIRST SLAM DUNK」のワンシーン出てくる神社に似ていると話題になったことで、聖地巡礼を目的とした観光客が神社へ訪れるようになった。
しかし、由利地域には魅力あるたくさんのお店や場所があるが、おもてなしの受け入れ体制や、適切な情報を発信し切れていなかった。そこで時代とターゲットに合った情報発信と、地域に見合う規模で温かみのあるおもてなしに取り組み、私たちらしい最高のウェルカムを目指した。

取組の内容

聖地巡礼を目的とした観光客の多くは、“思い出”を持ち帰りたいと、写真を撮る他に土産品を求めることに着目し、ご当地ならではの土産品があるとよいのではないかと考えた。特に、森子大物忌神社への観光の記念となるようなお土産品を作りたいと考え、本市及び県内の事業者に働きかけ、映画「THE FIRST SLAM DUNK」に係るバスケットボールや秋田に関連したオリジナルのお土産品を作った。これらのお土産品は実店舗での販売と同時に、観光客が足を運びやすいよう、森子大物忌神社お膝元の酒屋である熊谷寅蔵商店(由利)に協力を依頼し、委託販売も行った。

【土産品売上効果】
memomi営業日週5日以下・１日４時間以下の営業時間での実店舗販売・オンラインショップ販売・熊谷寅蔵商店委託販売にて、映画聖地巡礼のお土産品を売り上げた。

【土産品事業に付随した効果】
一連のお土産品をセット販売するに当たり、ラッピング作業の需要が生まれ、地域の女性の在宅ワークとして雇用の創出(現在までに流動的に３人参加し固定で１人を雇用)につながった。

【土産品事業以外のおもてなし取組】

聖地巡礼の観光客へのおもてなしとして、バスケットに関連するスタンプ(製作：地元はんこ店)を５個制作し、地図ポストカードとともに実店舗やその時々に要所と判断した場所１１か所へ掲示・配置した。

また、実店舗では、観光客が地図ポストカードにスタンプを押印して楽しむ様子を撮影させてもらい、その動画を含む広告をほぼ毎日SNSで全世界に発信した。

そして、SNSを利用しない層や子どもたちにも、ふるさとの観光の盛り上がりに気付いてほしいとの想いから、地図ポストカードを地域の保育園・小中学校全員に、ふるさと観光の広告宣伝も兼ねて寄贈した。

【スタンプ＆地図ポストカード取組効果】

聖地巡礼客が記念品として持ち帰ることや地図をもとに回遊するのはもちろん、本来memomiが主軸商品としている県内生花店のロスフラワーをアップサイクルしたSDGｓドライフラワーやエシカル雑貨の購入を目的にご来店された方々にも、来店時にスタンプ押印をサービスすることで、森子大物忌神社を認知してもらい、回遊観光へ導いた。

地図ポストカードは、切手を貼って投函すれば、郵便で情報発信もできる仕組みになっており、観光客だけでなく地域に住む人々（特に教育過程の子どもたち）それぞれが自分事として地域を考え、行動するきっかけを生み出している。

【情報発信の取組】

上記を土台として、観光客が由利高原鉄道を利用した回遊観光をご提案できるような情報発信と、実店舗に立ち寄りたくなるようなおもてなし・お土産品づくり、観光を楽しむ観光客の姿のリアルタイムのSNSでの発信に取り組んだ。

今後の展望

・ふるさとの由利本荘市鮎川駅で、由利高原鉄道回遊観光と、ロスフラワーをアップサイクルしたドライフラワーとエシカルな雑貨を主軸に、これからも必要なトキにイミある必要なモノ・コトを、みんなと協働しながら、必要なヒトへ届けていきたい。

・旅行の計画段階から地域のお店を知っていただき、どこに行けばどんな観光を楽しめるかご提案することで、さらなる交流人口を創出し、そのアクションから多岐にわたって関係人口を増やしていきたい。

・時代とともにしなやかに変化・調和・融合し、観光で訪れてくれる方々さえも巻き込みながら、行ってみたい秋田、また来たい秋田、ともに暮らしたい秋田を目指していく。

・お土産品の秋田杉めもみスプーンは、2024年７月の由利本荘市の大雨災害復旧に向け、恒久的に継続して利益の一部を寄付する目的をもって誕生した。経験とネットワークを駆使し、地域の希望の光として大雨災害の翌日には具現化し発信できた。刹那的なムーブメントに終わらせず、真の復旧を遂げるまで、この場所を愛し訪れ共感してくれる方々にも応援していただけることを願っている。

・災害ボランティアの方々に、製作の過程で発生したロススプーン(焼き印やカットが完璧ではないが品質に問題がないもの)を廃棄ロスの削減も兼ねて無料で差し上げる取り組みも続けていきたい。

由利本荘市商工会

大雨被害を受け、被災した地域の早期復興のため、災害ボランティア活動を実施

取組の目的・背景

当会のSDGｓ達成に向けた宣言書の「SDGｓ達成に向けた重点的な取組」として、地域社会への積極的な還元活動を掲げている。2024年７月24日からの大雨により、本地域では敷地内への土砂流入、床上浸水、床下浸水等の被害が発生した。

この大雨被害を受けて、由利本荘市社会福祉協議会には7月26日、「由利本荘市災害ボランティアセンター」が開設された。当会では被災した地域の生活再建支援等の早期復興を目的に、本市社会福祉協議会を通じた災害ボランティア活動に協力した。

取組の内容

2024年7月31日から8月9日までの期間、家財の搬出作業、スコップ等使用した泥上げ作業、建物屋内外での清掃作業などボランティア活動を実施した。

・普遍性

今回の災害ボランティア活動は、本地域において今まさに必要な支援活動である。

・包摂性

本取組を行うことで、大雨被害により被災された方々への生活再建支援へと繋がる。

・参画型

本取組は、本市社会福祉協議会との連携した関係性を構築することが可能となり得る。

・統合性

災害ボランティア活動を通じて、SDGｓの17の目標のうちの「11　住み続けられるまちづくりを」、「13　気候変動に具体的な対策を」の課題解決にも貢献できた。

・透明性と説明責任

本取組については、2024年8月20日に当会ホームページに掲載し、外部へ公表を行っている。

・あきたSDGsみらい加点

災害ボランティア活動を通じて、微力ながらSDGｓのゴール11「住み続けられるまちづくりを」に貢献できる。

■取組の実績・成果

災害ボランティア活動では、当会関係者延べ53名が参加し、地域復興に協力した。

今後の展望

今回のような災害ボランティア活動と当会のSDGｓ宣言書に掲げてある地域社会への積極的な還元活動を通じて、SDGｓのゴール11「住み続けられるまちづくりを」の取り組みを進めていく。